さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

問1 文部科学省が、近視の実態調査の結果を発表しました。何割の児童生徒が、近視と判定されましたか。

・小学校中学年：＿＿＿＿＿＿ 割程度

・中学生：＿＿＿＿＿＿ 割程度

問2 文部科学省は、どのような予防策を推奨していますか。2つ答えてください。

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問3 視力が低下しにくい子どもの生活習慣を答えてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

近視 学年上がるほど増加

文科省 小中学生調査

文部科学省は31日、小中学生を抽出して実施した近視の実態調査の結果を発表した。近視と判定された児童生徒は小学校中学年で4割程度だったのが、中学で6割程度となり、学年が上がるほど増える傾向が出た。屋外での活動時間を長くしたり、パソコン操作といった近くを見る作業を減らしたりする予防策を推奨している。

2023年度に約5200人分を集計した調査結果によると、近視の割合は小3が35・9%、小6が53・4%、中3が60・9%などとなった。

生活習慣と近視や視力低下の関係も分析した。屋外に出ることが多い子どもの方が、外に出ない子どもに比べ、視力が低下しにくかった。また、パソコンなど電子機器の利用時間が長いほど、視力低下につながる傾向が浮かんだ。

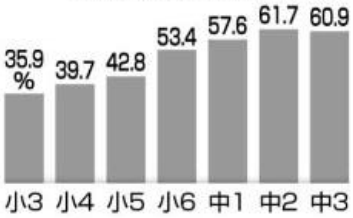
文科省は①授業や休憩時間以外に1日1時間半を屋外で過ごす②近くを見る作業の際に30分に1度は目を休める―などが効果的だと学校現場に周知する。

こうした方針に、東京都内の小学校養護教諭は「保護者が買い物の際に子どもに声をかけるなど、家庭で『少しでも外出しよう』という意識を持つのが大切だ」と指摘。ただ、放課後は習い事をする児童が多く、夏は熱中症の恐れもあり、現実的には長時間の屋外活動が難しいとする。

長野県の教員や医師らによるNPO法人「子どもとメディア信州」の松島恒志代表は「(目への負担を減らすため)家庭でスマートフォン使用にルールを設けるなど、適切に使っていく必要があると子どもや保護者に発信したい」と話した。

調査は、角膜から網膜までの長さ「眼軸長」などの測定値に基づき近視かどうかを判定した。23年度は約8900人に実施し、うち約5200人は21年度からの継続的な調査対象者だった。

近視と判定された児童生徒の割合
※2023年度文部科学省調査による



（2024年8月1日付 山梨日日新聞22面）

問4

あなたが、近視にならないために、注意していることを書いてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.